

しまね流エシカル消費のアイデア募集 作品一覧 (受付順)

令和2年10月

□地産製品を進出企業に！

山田敏子

地産地消として、練り製品、魚貝・味噌・醤油等の調味料は地元産を使います。

たまり醤油（刺身）など大手企業のものを使っても美味しくありません。

都会から進出している飲食店が目立ちますが、地元産のものを使って頂くのは効果的です。回転寿司でも地元の刺身醤油を使用することで地元の味を守れます。

調味料は「ソウルフード」の最たるものです。

□地域の食材で料理を作って広めよう！！

山縣克海

地元の食材と障がい者福祉施設の商品とのコラボにより美味しい料理を作り、広めていきたいです。地元の食材を使う人が増えると地域の活性化につながると同時に、障がいのある人たちが作る商品の価値を知ってもらいたいと思いました。また、食料を遠い場所から運んでくると大量のCO₂が排出され、環境への負担が大きくなってしまいます。地域で食材を育てて、地元の食材を積極的に食べるとCO₂の排出を減らすことができ、環境にもやさしい取り組みになると思います。

地元の食材と障がい者福祉施設の商品を広めるためには、ホームページを作成しコラボ料理を掲載し、料理の食材がオンラインで購入できるようにする。また、若者がよく使うSNSで料理を発信したり、掲載してもらったりすることで広めていけるのではないかと考えました。

「アラメ藻塩のしいたけの肉詰め」のレシピと写真を添付


「地域の食材で料理を作って広めよう！！」

地元の食材

奥出雲産しいたけ

地元の障害者福祉施設の商品

アラメ藻塩（社会福祉法人山陰家庭学院通所授産施設はばたき）

献立名	アラメ藻塩のしいたけの肉詰め	
工夫した点	素材の味が引き立つように、味付けをアラメ藻塩のみで行ったところ。	
材料・分量	奥出雲産しいたけ 3枚 ひき肉 75g 卵 1/2個 すりおろし生姜 小1 片栗粉 適量 アラメ藻塩 少量	できあがり写真 
作り方	①しいたけの軸を取る。 ②軸をみじん切りにし、ひき肉、アラメ藻塩、卵をボールに入れよくこねる。 ③肉のタネができたなら、3等分に丸める。 ④しいたけの裏に片栗粉をまぶし、肉のタネを詰める。 ⑤フライパンに肉のタネを下にして入れ、アラメ藻塩を少々振り、ふたをして弱火で色が付くまで焼く。 ⑥ひっくり返し、アラメ藻塩を少々振り弱火でしっかりと焼く。	
作って食べた感想	しいたけとアラメ藻塩の相性がとても良かった。 ボリュームがあり、食べ応え抜群！！	

□食べ物が捨てられないために

大賀ゆずは

誰もが共感できるような「捨てられる食べ物の気持ち」のアニメを作る。CM や若者向けにインスタやツイッターでそのアニメを流したら良いと思いました。

□みんなで消費エシカルアプリ

熱田実穂

エシカル消費を推進するためのスマホアプリを作る。

そこにエシカル消費の協力店の地図を載せ、賞味期限が近づいて消費に協力して欲しい食品の情報を知らせる。食材を残さず使えるレシピを提供する。アプリ内にスタンプカード機能を付けて、対象商品を購入するとスタンプが貯まり、フェアトレード商品やリサイクル商品と交換できるようにする。

□しまねから！地域支援・地産地消

小西萌由

説明

すでに障がいをもつ方の支援のための取り組みは至るところであります。それだけでは不十分だと思われ、出雲大社などの有名観光地に障がいのある方が作った小物や野菜などを(ステッカーやシールをつけて)売るブースを設けてもらい、障がいをもつ方々への理解と共に、地域の高齢者にもその指導に関わってもらい、コミュニケーションや生きがいにつながり、双方の健康にも良い影響を与えると思います。



□スマホアプリ

佐藤かなめ

環境問題解決のための情報をまとめた島根県のスマホアプリを作る。

①ゴミの分別の方法

服のリサイクル方法や分別の方法を詳しく載せる。

②ゴミ箱の位置

どこにゴミ箱があるかの情報を載せる。

③買い物の情報

島根ではフェアトレードの商品をあまり見ないので、店舗の情報や購入したことの効果の情報を載せる。

全体的に地域密着型のアプリにしたいので、細かい情報まで載せた方がよい。

□フェアトレード食品を食べてみよう

平井佐和

フェアトレード食品を食べたことがある人は少ないと感じているため、県内の飲食店にフェアトレード食品を使った新メニューを考えてもらう。

また定期的に学校給食でも「フェアトレード給食」を出して、たくさんの人にフェアトレード食品を体験してもらい、個人の買い物に繋がられるようにする。

□エシカル消費を広めていくには

吉川千智

実際に食べ物が廃棄されたところの写真を手に取るときに必ず見える所に貼る。写真の近くに「手前から取っていけば写真のようなことにはならない。」

というような説明を付ける。

□フェアトレードショッピング

川谷洸大

僕が考えたフェアトレードショッピングは、世の中のお母さんたちにとって嬉しいものとなっています。フェアトレードの商品を買うとポイント3倍や5%OFFなど、こうやってお母さんたちにとっておいしいことで釣っていく。これでお母さんたちも得だとフェアトレード商品も売れるので良いかなと思います。

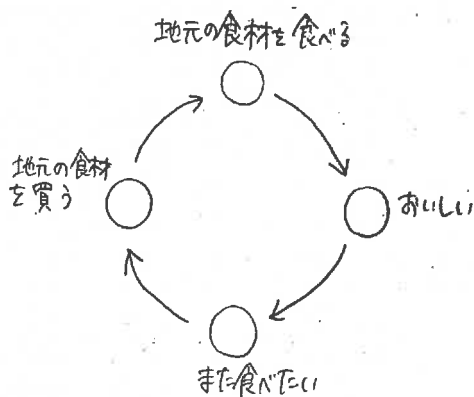
□しまねの食べ物いっぱい食べよう大作戦

黒田千聡

説明

小学校・中学校は給食，高校・大学は学食，会社は食堂で、
地元の食材を使用した献立を提供する日をつくる。⇒地産地消

そうすることで起こること



学食、食堂で注文してもらうためのアイデア

- 注文してくれた人の中から抽選で、地元の野菜や特産品などが当たるようにする。
- 安い外国産のものとはちがうんだ!! とアピールする。
(例) こだわりの部分を伝える。
「無農薬で安心!!」など

□便利から配慮へ

古瀬一輝

島根には出雲大社や松江城をはじめとする様々な観光地がある。食べ歩きのできる店も多数ある。

だがその一方で、観光客の出したプラスチックゴミをはじめとするゴミが道端に捨てられているのを時々目にする。そこで私は、全店が容器を陶器へ変えることを提案する。そうすることで、観光客も購入した店舗付近で食べるだろうし、プラゴミも減り、容器代もかからなくなる。食べ歩きできなかった観光客への配慮として「しじみのストラップ」をはじめとするお礼品を渡してもいいかもしれない。

□アレンジレシピを紹介！！

昌子瑞歩

料理を作りすぎてしまって、食品を無駄にしてしまうことは家庭でよくあることではないでしょうか。

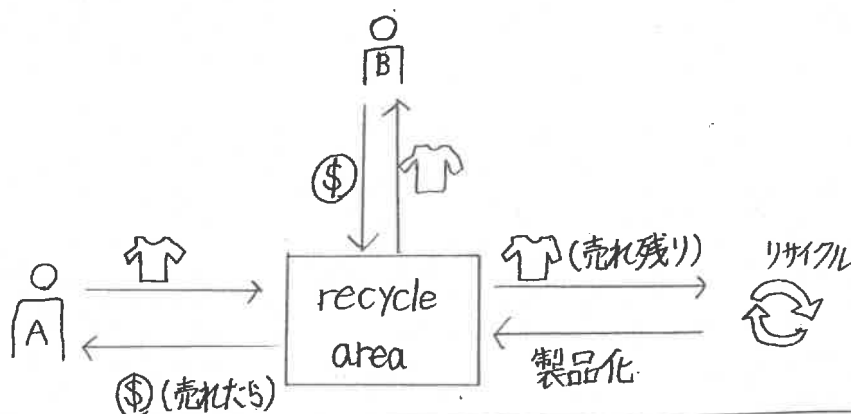
そのような問題を解決するのに有効なのは、余ってしまった料理のアレンジレシピをスーパーなどで紹介することです。スーパーという多くの人々が行く場所に簡単なアレンジレシピを置くことで、食物を無駄にせず、家庭での良い消費生活を営むことが広まっていくと思います。

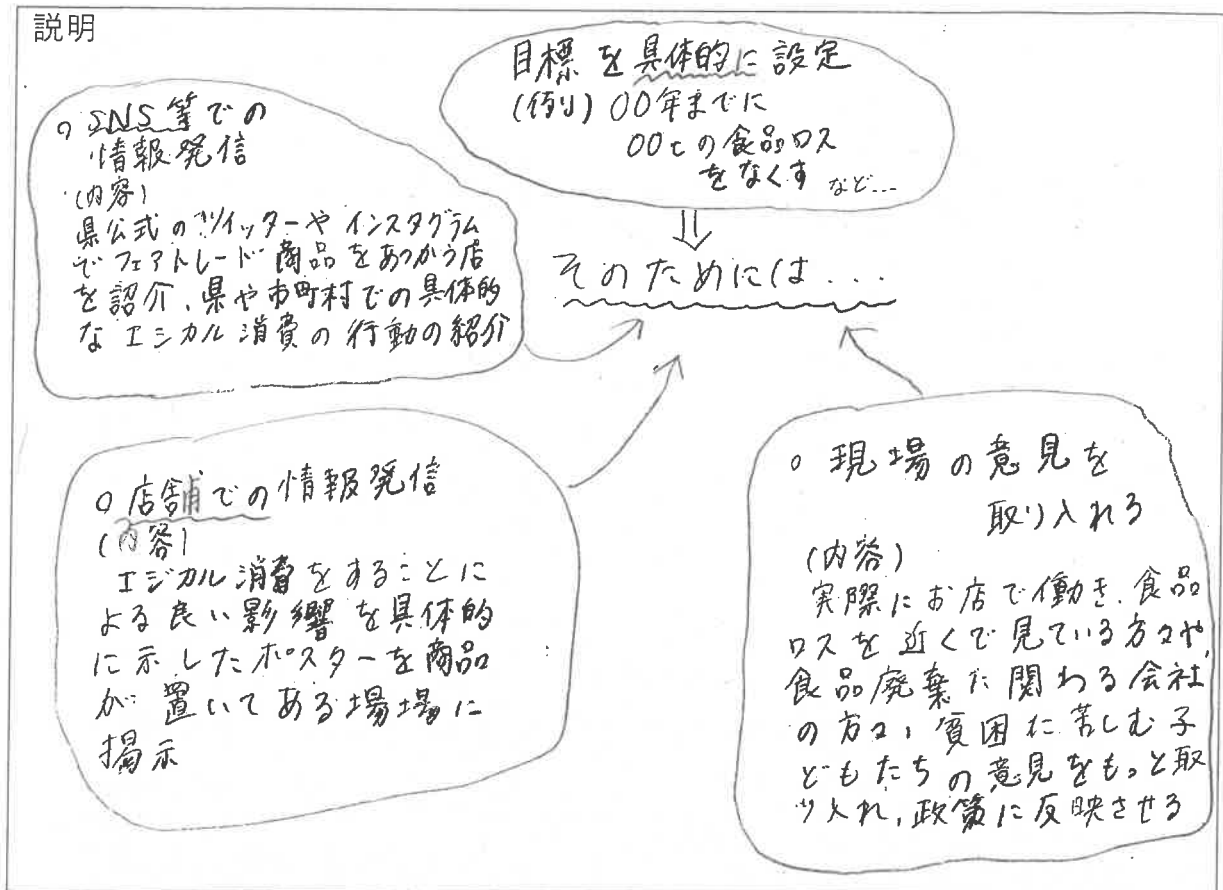
□リユース and リサイクル Keep Earth ~ recycle area ~

竹田聡太

説明

衣類や家具などを捨てる際には、県内の各市町村に配置する「リサイクルエリア」に持っていく、商品として出します。そして、売れたらその利益は商品を出した人のものになるということです。売れ残ったものは、解体・再生して製品化するものです。





□フェアトレード王国しまね

伊藤篤永

フェアトレード商品と島根県の特産品をコラボさせた商品（例えばフェア
トレードのチョコと島根県産のデラウェアからできるレーズンを使ったチョコ
コレズンケーキなど）を島根県内の駅や道の駅、スーパーの地産地消コー
ナーなどで販売する。

□福をもたらす!!服のリサイクル

園山美衣奈

説明

1. 各地域にある公民館・コミュニティーセンターに着なくなった服を持っていく。
2. その服の質・量によってポイントをつける。
3. **消費者**

このバックを持参すると
地域のスーパーでポイント2倍
などでもいいため。

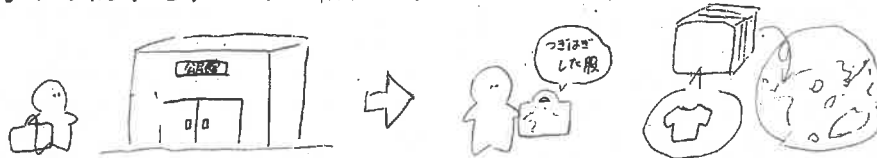
そのポイントに応じて、エコバックなど、環境に優しいものをプレゼント

公民館・コミュニティーセンター

(以前ユエフロで見つけたのですが)

まだ着用可能だと思われる服は貸して、服を買うことができない人たちのいる国へ。

もう着用不可能だと思われる服は、使えるところを切りとって、商品のエコバックに活用。



□笑顔が広がるエシカル袋!

林 那菜子

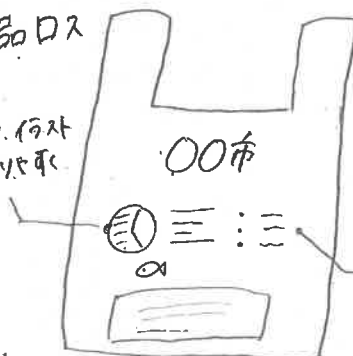
説明

市町村のゴミ袋に、食品ロスの実態やリサイクルの重要性を表現したグラフィックやイラスト、写真を印刷したり、エシカル消費がどういうもので、私たちに具体的にどう活動していけばいいのかわかると誰かがわかりやすいイラストや簡易な文などで紹介する。

市町村のゴミ袋に印刷してあれば、島根県の多くの人が自然と目にする事ができ、捨てる前に、消費者に一度捨てるかどうか考えさせる事ができ、食品ロスや、ゴミの量を減らす事ができる!

<例>

グラフィックやイラストでわかりやすく



リサイクル方法やエシカル消費ってなにかなどわかりやすく

□エシカル消費を知るイベントを開く。『島根でエシカル消費を広め隊』

安食妃菜

地産地消の商品、島根の特産品を販売したり、家庭菜園のすすめや具体的な方法を教えるようなイベントを開催する。イベントで島根県民が実践している持続可能な消費の工夫を県民自身がプレゼンテーションすれば、他の県民も実践しやすくなる。こうしたイベントを新聞やニュースで取り上げてもらえば、持続可能な消費を実践しようという考え方が広まり、深まっていくのではないかと思う。

□「エシカル消費」という言葉を誰もが理解できるように

梅澤美月

説明

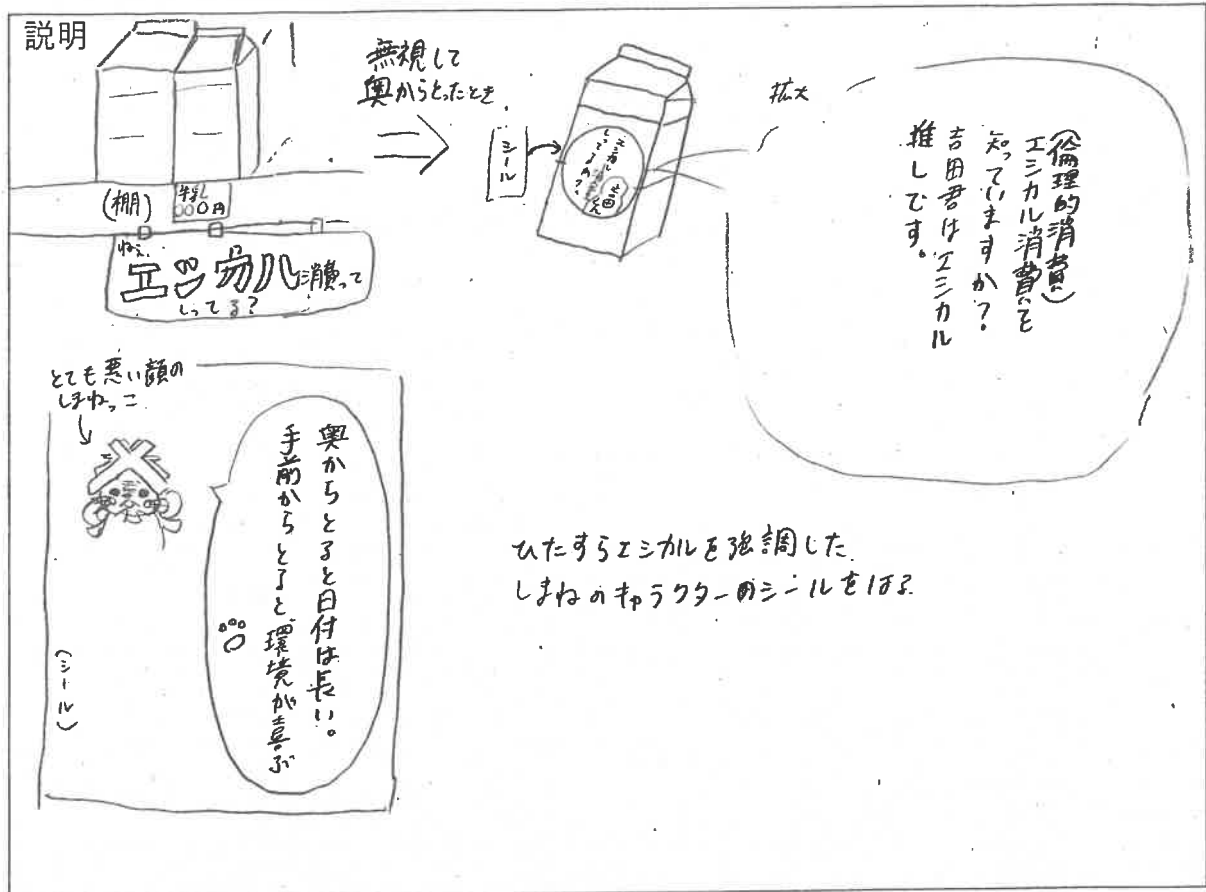
どの年代の人にも、「エシカル消費」という言葉はあまり耳馴染みがないと思うし、言葉の意味を理解している人も少ないと思うので、店先・テレビ・SNSを使、で「エシカル消費」という言葉を広める。店先では、エシカル消費につながるフェアトレード製品を売り出し、店に入ると人が目につくところに置くようにし、レジ右の巧なステッカーやポスターを貼ること、人々に「エシカル消費」という言葉を認識してもらう。テレビではCMでエシカル消費について簡単に紹介し、若者が多く利用するSNSでは、広告でエシカル消費について紹介すること、幅広い年齢層の人にエシカル消費について理解してもらう。

また、「エシカル消費DAY」という日を毎月とり、その日はスーパーや服屋などもエシカル消費につながる商品を売り出す。

私たちの店には「エシカル消費」を推奨しています。

□エシカル推しの吉田くん、しまねっこ

豊田詩月



□エシカル消費を日常に！

内藤千結

フェアトレード商品を置く、過剰包装をしない、地産商品を置く、環境に配慮した企業のものを置くなどの条件が達成されたお店にエシカル消費ができるお店としてステッカーを配付する。広めていけば消費者にエシカル消費を実践してもらえるのではないかな。

また、そもそもエシカル消費を知らない人は多いと思うので、CMを流すといいと思います。

これからの学校の授業にも積極的に取り入れて行くべきです。エシカル消費を進めていくことで島根県のPRにもつながると思います。

□観光業と環境についてのエシカル消費

石田晴菜

私は廃棄物に着目し、使われなくなった自転車を出雲大社、観光名所または駅などに配置し、観光客に利用してもらう。それにより自動車を使わないので、CO2の削減につながるるとともに、使用者の環境に対する意識の向上につながると思われる。

□マイボトル・マイバッグ美術館

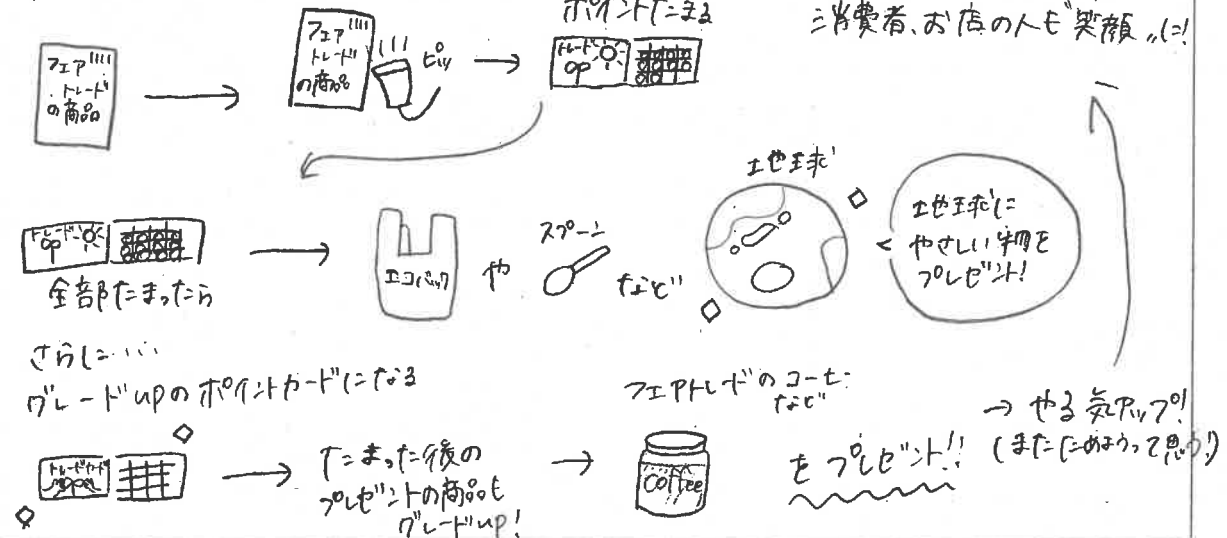
川田二千花

地域の人たちで裁縫や物作りが得意な人や、子どもたちの夏休みの作品でマイボトルやマイバッグを作る取り組みをする。コミュニティーセンターや交流会館でその作品を展示して、見に来た人たちが気に入った物を買うことができる。その活動が地域の活動として定着すれば、マイバッグ、マイボトルを持つ人も増えるし、環境に配慮する意識も広がっていくと思う。

□フェアトレード活動で笑顔を増やそう！！

須山莉々香

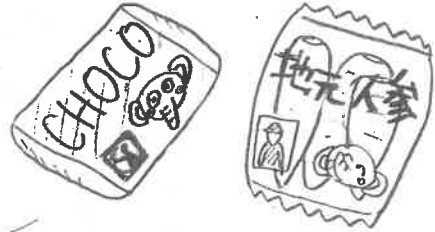
説明 フェアトレードは周りで売られている商品よりも値段が高いので、フェアトレードの商品に手を出さない人が多いので、「スマイルカード」や「トレードカード」などの名前がついたポイントカードがたまに物を作ります。そのカードが貯まるまで、エコバッグや、植物由来のスプーンなど、環境に優しいかつ、生活に役立つような物を、ポイントカードが貯まるまで消費者さんにプレゼントをする。



説明

☆ フェアトレード商品
被災地の商品
障がい者雇用につな
がる商品
環境に配慮した商品

シールをつける



シールをためる



たまったら...

☆のプレゼントが
当たる!!